

ガク チキ  
学校と地域をつなぐ教育広報誌

# ガクチキ



第14号

特集

狛江第二中学校

校長先生インタビュー

令和4年度よりコミュニティ・スクール（CS）を導入しました！  
「地域とともにある学校」を目指し、学校をとりまく地域や家庭、すべての皆様に  
学校にかかわっていただく仕組みです。右記QRコードから、「CS通信」にアクセスできます！



# 狛江第二中学校特集

狛江市の東南部に位置し、東和泉・岩戸北の一部と、岩戸南・猪方・駒井町の全域が学区。近年の急激な都市化で宅地化が進んでいますが、学校の周りには畑も残っています。多摩川も近く、四季の自然をとどめる恵まれた教育環境にあります。今回は狛江市立狛江第二中学校（以下、二中）について、猪瀬校長先生のインタビューをとおして掘り下げていきます。

## 基本情報

所在地 〒201-0015 東京都狛江市猪方二丁目7番1号  
開校年月日 昭和42年4月1日  
生徒数 423人（令和5年2月1日現在）

## 教育目標

- 自主自律「自ら学び考え、自らを律しつつ、主体的に行動する生徒」（問題発見・解決能力）
- 相互敬愛「自他の生命を尊重し、相互に高め合う生徒」（人間関係形成能力）
- 意志と実践「夢や目標の実現に向け、強い意志をもち、前向きに実践する生徒」（実践力）



INOSE  
MASAYUKI  
猪瀬 政幸

## 校長先生インタビュー

校長先生としての活躍はもちろんのこと、青森ねぶた祭、ボディメイクでの活動など多方面で活躍されている猪瀬校長先生。今回はそんな猪瀬校長先生の生い立ち、教員人生とともに、二中について話を伺いました。

### 生い立ち・経歴

**事務局** 初めに、校長先生の経歴、今までどんな学校に赴任してきましたか。

**校長** 大学を卒業して、最初に多摩市の永山中に着任しました。その後、町田市の真光寺中、そして、新しく開校する稲城六中に異動し、稲城市内の中学校で計4校19年間勤務しました。校長昇任とともに狛江第四中学校（以下、四中）、そして昨年度、本校に着任しました。

**事務局** 出身はどちらになりますか。

**校長** 生まれは東京で、3歳頃から結婚する

直前まで、稲城市に住んでいました。

**事務局** 教師を志したきっかけを教えてください。

**校長** ものづくりが好きで、中学生の頃は設計やダム建設などに携わりたいと思っていました。でも、元々、人に教えることが好きだったり、小中高と恩師にも恵まれ楽しい学校生活を送れたこともあり、高校3年生で進学先を決める際に教師になる決意をしました。そして大学卒業後、中学校技術科の教員になりました。

**事務局** 得意科目は技術でしたか。

**校長** 実技教科が好きでしたね。技術、美術、音楽、体育が好きでした。体育の先生になることも考えましたが、やはりものづくりが一番好きでした。

**事務局** ものづくりが好きになったのは、育った環境の影響でしょうか。

**校長** 子どもの頃は竹藪に入り、竹を割いて骨組みから凧を作ったり、水鉄砲を作ったりして遊んでいました。作品が表彰されたこともあるんですよ。お金がなかったので、何か壊れたら手近にあるもので修理することもありました。

## 二中学生は優しい

**事務局** 二中の良いところはどこですか。

**校長** 一番は子どもたちが優しいところです。仲間に対しても、大人に対してもとても優しいです。周りが失敗しても温かく見守っている姿、仲間同士で助け合う姿、このような姿がたくさん見られます。小さい頃から家庭や地域、学校でそのように育ってきたのだと思います。人に対して、疑わない、否定的でない、まずそれが一番感じるところです。

**事務局** 学校として、力を入れている取組みや教育内容はありますか。

**校長** 自分の考えや伝えたいことを表現できる生徒を育てる取組みを行っています。そのためにお笑いの講師を招いたり、即興演劇の授業なども行っています。例えば、クラス目標発表会で独自の表現方法を用いて発表するなど、各学年のプロジェクトや教科の授業の中で、意図的に個人や集団で表現・発表をする場を設けています。

**事務局** お笑いの講師は外部の方ですか。

**校長** 昨年は、舞台俳優でもあり、即興演劇を企業等で教えている方をお招きしました。今年は、大学講師もしているお笑い芸人の方にワークショップをお願いしています。いずれも、個人的に参加したセミナーで知り合い、直接交渉して学校に来ていただくことになりました。

**事務局** 生徒たちによく伝えていることはありますか。

**校長** 私がよく生徒に伝えている3つのキーワードは、「感謝」「笑顔」「失敗してもOK」です。人を笑顔にする。人に感謝する。それが幸せに



玄関横に植樹された「ヒマラヤ杉」「大王松」「メタセコイヤ」の3本の樹。『やる気』『勇気』『根気』の三本の“き”を二中で大きく育てて欲しい』という初代校長の思いを第一卒業生が植樹で表現した。

生きるための一番の方法だと考えています。また、「どうせ無理」という言葉で、やる前から諦めてしまわないように、失敗の繰り返しの先に成長があること。そして、夢を描き、皆でその夢を応援していこう、と伝えています。



**事務局** 男子バレーボール部が都大会で好成績を収めたと伺いました。

**校長** 初めてベスト8まで進出しました。1・2年生だけでも50人以上の部員がいつも元気に活動しています。

**事務局** 公立学校ではあまり聞いたことのない部員数ですね。

**校長** 試合に出られるのは、交代枠を含めても10人程度。そう多くはないですね。試合に出ること、勝つことだけが目標ではありません。皆、バレーボール自体が好きで、普段の練習から全員一丸となってプレーしています。保護者の方の応援も熱心ですね。



男子バレーボール部

## 地域との関わり

**事務局** 地域と連携した取組みがあれば教えてください。

**校長** コロナ禍前は地域の方々と一緒に様々な取組みを行ってきたと聞いていますが、それがほとんどできなくなりました。それでも、生徒たちのために何かできないかと思ってくださる方が多く、昨年度からPTAやおやじの会をはじめとした地域の方々のご協力を得て「職業人の話を聞く会」を開催しています。先日、新たな方法で職場訪問も実施することができました。まだ構想の段階ですが、来年度に向けて、地域主体で学校を会場にしたイベントを開催できないか、地域コーディネータの方と相談しています。防災体験や祭り体験など、誰もが参加できて地域が一つに繋がるものが実現できたらと思っています。

## 多方面での活動

**事務局** 話は変わりますが、「ミスター<sup>はねと</sup>跳人※グランプリ」になられたと伺いました。どのようなきっかけで青森ねぶた祭と関わるようになったのでしょうか。

**校長** 13年前に青森県出身の同僚の先生に誘われて青森ねぶた祭に行きました。一瞬にして「これだ!」と感じるものがあり、以来、中止になった年を除き毎年参加しています。数年前から跳人の団体に所属して、ただ祭りを楽しむだけでなく、一般の跳人のサポートをしたり、イベントで跳ねを披露したりしています。それから、「誰かを楽しませること」が心地よいことだと思えるようになりました。

**事務局** 生徒の前で跳人を披露したことはありますか。

**校長** 二中ではまだありませんが、前任の四中では、お囃子<sup>はやし</sup>の団体を招いて跳人体験をしました。二中学生にも折に触れ、青森ねぶた祭に関わる話をしています。5回目の挑戦で「ミスター跳人」に選ばれた時も、全校朝会や学校だよりで報告させていただきました。二中学生にもいつか披露して、一緒に跳ねたいですね。

**事務局** その学校だよりの中の「諦めずに挑戦することの大切さ」という校長先生の言葉が胸に響きました。

**校長** ありがとうございます。私は常々、指導者である前に「体現者でありたい」と思っています。やったことがない人が言うより、実際にやった人のほうが説得力もありますよね。



ねぶたと跳人衣装を着た猪瀬校長先生



今年度から導入されたポロシャツ。  
襟のロゴデザインは生徒による応募、  
投票により決定された。

ミスター跳人への挑戦は、より多くの人に青森ねぶた祭の素晴らしさを知ってもらいたいのが目的でしたが、何度も挑戦し続けたのは、諦めないことの大切さを生徒たちに身をもって伝えたい思いもあったからです。

**事務局** 他にボディメイクがご趣味とのことですが。

**校長** はい。50歳を過ぎた頃、ジムのトレーナーに勧められてコンテストに出場したのをきっかけに、期間限定で体を絞っています。よくボディビルと間違われるのですが、私が出場しているのは「モデルジャパン」という、筋肉の大きさではなく細身で引き締まった体を競う大会です。実は、日本大会で優勝経験もあるんですよ。

**事務局** ボディメイクと跳人に何か繋がりがありますか。

**校長** 特に関係はありません(笑)。

**事務局** スポーツジムに通って体を作り上げているのですか。

**校長** 本当はトレーニング自体あまり好きではないんです。時間もあまり確保できませんし。もちろんある程度はジムでトレーニングしますが、ボディメイクの要素の9割は食べ物だと考えています。食事を上手くコントロールすれば、脂肪は自然と落ちていきます。

※青森ねぶた祭でお囃子に合わせて踊る(跳ねる)踊り手。  
ミスター跳人コンテストでは、跳ね方の美しさやねぶた祭への情熱などを審査し、その年のミスター跳人が3人(うち1人がグランプリ)選ばれる。

## 二中の展望・目標

**事務局** 最後に、二中の今後の展望や目標を教えてください。

**校長** 一人ひとりが自分を起点として、誰かのため、地域や社会のために、私はこんなことをしたい、こうすることで社会貢献していきたい、と思うだけでなく、発信・行動できる人になってほしい。それには、自信をもって自分を表現できる力を身に付けることも必要です。失敗することを気にして、やる前から諦めてしまわないように、まわりの仲間の励ましや後押し、応援も大切です。何かに夢中になる。人を喜ばせることで幸福感を得る。自分が誰かにしてもらったことに感謝し、その感謝の気持ちを別の誰かに返す。中学校3年間で、そんな体験の一つでも多くさせてあげたいと思っています。子どもたちは狛江の財産です。自分が育った狛江を

愛し、いずれは狛江、ひいては日本の未来を主体的に担っていけるよう、その礎を築いていきたいですね。



平成23年度に完成した屋内運動場。  
令和5年度からは猪方こどもクラブ  
が設置される。



# 茅葺屋根の葺き替え - 20年目の一大事業 -

茅や竹、わら縄などの自然素材をもって屋根とする茅葺屋根。農村の原風景の一つも、今では目にすることが稀に。市内に残る茅葺屋根は、むいから民家園の古民家のみ。かつては村総出で行なっていた屋根の葺き替えも、今では保存すべき伝統技術に。その技術を持つ職人は限られています。茅葺屋根の耐用年数は20~30年ほど。ススキやヨシなど、原材料の入手も困難に。しかし、古民家を生かし適切に保護・保存するためには、葺き替えは不可欠のこと。むいから民家園では、開園20周年の節目に屋根の総葺き替えを行いました。

むいから民家園開園20周年



## むいから民家園開園20周年 - 記念イベントを開催 -

平成14年4月の開園から20年。20年を一つの節目に、記念イベントを開催します。イベントは地域の方々からなる実行委員会が企画。古民家園ならではの催しを準備しています。

屋根も気持ちも新たに21年目の第一歩。これからも、地域の方々と連携して、むいから民家園の活用に取り組んでいきます。

日にち ● 令和5年3月26日(日)  
会場 ● むいから民家園(元和泉2-15-5)



古民家園20周年記念事業実行委員会のみなさん

